国 外 実 態 調 査 報 告 書

テーマ　　：　ICBEIT への参加・発表
ゼミ名　　：　川端 千暁 ゼミ
調査日　　：　2025 年 3 月 21 日（金）～2025 年 3 月 23 日（日）
調査先　　：　【フィリピン】セブ・マクタン@フィリピン
授業科目名：　演習Ⅱ
参加学生数：　3 名（3 年生）

調査の趣旨（目的）

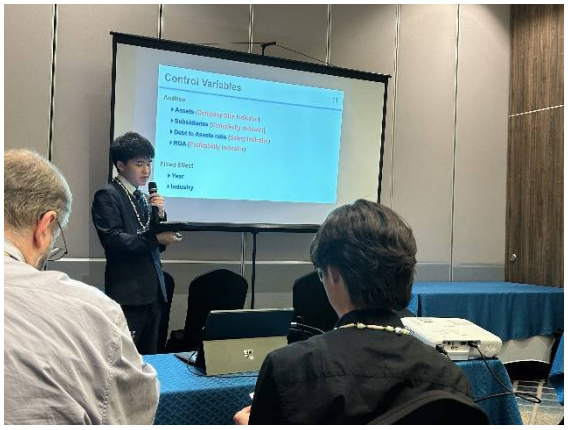
今回の調査は、学生がフィリピン・セブ島で開催された国際学会 ICBEIT（International Conference on Business, Economics and Information Technology）に参加し、英語で研究発表を行うことを通じて、国際的な視野と主体的な研究姿勢を育むことを目的としています。発表準備や現地での交流を通じて、発信力、プレゼンテーション能力、時間管理力の向上が期待されます。さらに、学会発表を経験することで、自らの研究の意義や課題を客観的に見直すきっかけとなり、今後の学習や進路選択にも良い影響を与えると考えられます。本渡航は、単なる学術成果の発表にとどまらず、学生が自身の成長を実感できる総合的な学びの機会となることが期待されます。

調査結果

本ゼミより以下の 3 グループが研究発表を行いました。

・大村晃也・澄川悠（3 年、ほか 3 名との共著）
「監査判断における職業的懐疑心の影響―シリアスゲームの開発とそれを用いた実験的研究―」（The Impact of Professional Skepticism on Audit Judgment: Development of Serious Games and Experimental Research Using Them）
→ 職業的懐疑心の概念を体験的に理解できる教育ツールとしてのシリアスゲームを独自に開発し、実験的にその効果を検証。ゲームの設計・実装から統計分析に至るまで学生主導で行われた点が高く評価されました。

・糟谷和希（3 年）
「日本における紛争鉱物開示の実態調査」（Survey of Conflict Minerals Disclosure in Japan）
→ 上場企業の開示資料を用い、紛争鉱物に関する情報開示の実態と傾向を整理。報告書別・業種別に開示状況に着目した分析により、日本企業の対応のばらつきや課題点が明らかになりました。

・櫻井智輝（4 年、指導教授との共著）
「監査法人の IT システムが監査チームの構成に与える影響」（The Impact of Audit Firm’s IT Systems on the Composition of Audit Teams）
→ 大手監査法人への IT システムが監査チームの構成に与える影響を統計的な分析により検証しました。

質疑応答では、海外大学の教授陣から各発表に対して高い評価をいただきました。具体的には、実証的手法の精度、調査対象の独自性、教育への応用可能性などが評価され、今後の研究発展に向けた助言や励ましの言葉も多く寄せられました。